

徳島県から新たに発見されたエゾヌカボ *Agrostis scabra* Willd.
(イネ科)

茨木 靖¹・東 衛史²

[Yasushi Ibaragi¹ and Morihito Azuma² : New record of *Agrostis scabra* Willd.
(Gramineae) from Tokushima Prefecture, Japan]

キーワード：イネ科，移入種，植物誌

2009年9月に徳島県名東郡佐那河内村を調査し、いきものふれあいの里付近の荒地で見慣れない植物を採集した(図1a)。その後の検討により、これはエゾヌカボ *Agrostis scabra* Willd.であると判明し、徳島県からは初めての発見であることが確認されたので報告する。

本種は、北海道～本州中北部の日当りのよい山地の草原などに生える多年草で、国外ではシベリア、北アメリカなどに分布する(Hitchcock, 1950; 長田, 1989; 大井, 1993)。ヌカボによく似た草本であるが、小さな株を作り、根出葉は糸状で幅1-2mmと細く短い。葉舌は膜質で尖り(図1b)、長さは1.5-2.5mmに達する。稈は叢生し這わない。高さは40-80cm。花序は長さ20-40cmの広卵形で、植物体の半分以上の長さを占め、枝はざらつき細く著しく長くて開出する。花序の基部には小穂が着かない。また、小穂は長さ1.7-2.3mmほどで、第一包穎は第二包穎よりもやや長い(図1c)。護穎は基毛を有し、長さは1.5mmほどで包穎よりも明らかに短い。護穎には芒は無い。内穎は消失。葯は3本で長さ0.5mmである。本種の発見地点では、他にも外来と思われる植物が見つかっており、本種も土などの移動に伴って持ち込まれたものである可能性が高い。なお、北アメリカ原産のフユヌカボ *Agrostis hyemalis* (Walter) Britton, Dterns & Poggenb.の小穂は1.5-1.7mmと本種よりも小さい点で区別できる(木場, 2001)

標本：徳島県名東郡佐那河内村大川原高原 ネイチャーセンター付近 Around Nature center of Sanagouchi, Ohkawara, Sanagouchi-gun, Myoudou-gun, Tokushima Pref., Shikoku, Japan. (Y. Ibaragi 091020001, 20 Oct. 2009, TKPM-BSP075400)

本研究にあたり、徳島県植物研究会会長の木下覺氏にはエゾヌカボについての貴重な情報を頂きました。ここに記して謝意を表します。

引用 2011年2月28日受付, 3月3日受理。

文献 ¹ 徳島県立博物館, 〒770-8070 徳島市八万町文化の森総合公園, Tokushima Prefectural Museum, Bunka-no-Mori Park, Tokushima 770-8070, Japan.

² 徳島県立佐那河内いきものふれあいの里, 〒771-4102 徳島県名東郡佐那河内村上字大川原 5-8. Ohkawara 5-8, Kami, Sanagouchi-gun, Myoudou-gun, Tokushima 775-0005, Japan.

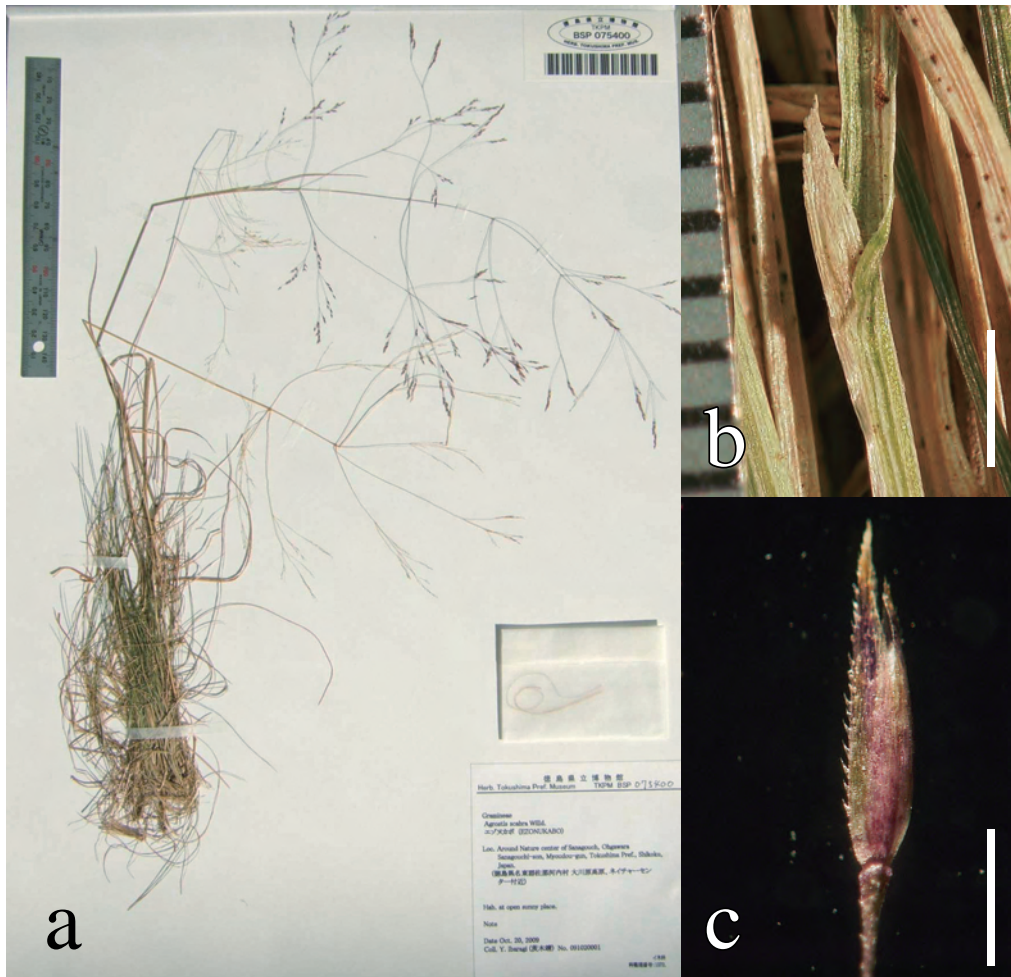


図1. エゾヌカボ. a: 証拠標本 (Y. Ibaragi 091020001, 20 Oct. 2009, TKPM-BSP075400) ; b: 葉舌; c: 小穂
Bar = 1mm.

Hitchcock A. S., 1950. Manual of the grasses of the United States. 1051 p. United States Government Printing Office, Washington.

木場英久 2001. ヌカボ属. 神奈川県植物誌調査会 (編), 神奈川県植物誌 2001, p. 292-296. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.

大井次三郎. 1993. イネ科. 佐竹義輔, 大井次三郎, 北村四郎, 亙理俊次, 富成忠夫 (編), 日本の野生植物, p. 85-126. 平凡社, 東京.

長田武正. 1989. 日本イネ科植物図譜. 759 p. 平凡社, 東京.